

ピアノ

東部小・3 城田 心暖

手にはあせがびつしよりで、何度も何度もハンカチで手をふきました。すごく心ぞうがドキドキして、さわいでいました。心の中で、落ち着け、わたしとさけんでいました。

わたしは、この夏ピアノコンクールにチャレンジしました。三月に出たピアノのコンクールが終わってから、えんそうする曲を決めて、毎日毎日練習して、がんばってきました。

わたしは、四才のときにお兄ちゃんといっしょにピアノ教室に通い始めました。四才のときのわたしと六才のときのお兄ちゃんをくらべると、お兄ちゃんの方が、指が速く動いて上手だったので、見えていいなど、いつも思っていました。

そして、わたしが年長のときに、はじめてピアノのコンクールに出ました。みんなの前でえんそうして、はく手をもろうとうれしかったです。トロフィーももらって、もっとよいしよを取りたいなと思って、いろんなピアノのコンクールに出るようになりました。

コンクールでえんそうする曲は、たくさん練習します。ひくのがむずかしいところは、何度もくり返して練習します。リズムやテンポも大切で、強弱記号にも気をつけてえんそうします。ペダルを使う曲もあります。このように、一度にたくさんすることを考えてえんそうしなければいけないので、とても大へんです。

今回のコンクールでもたくさん練習しました。家族もたくさんお

うえんしてくれました。とくにお兄ちゃんは、お母さんが仕事でいそがしいときに、かわりに見てくれて、

「テンポがおそいよ。」

「今のえんそうはよかったよ。」

と、アドバイスを言ってくれました。練習は大へんだったけれど、たくさんおうえんしてくれたので、がんばることができました。

いよいよコンクールの日がやってきました。自分の番がよばれて、ぶ台の真ん中に行きました。礼をして顔を上げると、目の前にたくさんのかん客がいました。上手にひけるかなと心配になったけれど、お母さんが、

「大じようぶ。たくさん練習して、たくさんど力したから、きっと上手くひけるよ。」

と、ぶ台そでで言ってくれたのを思い出して、深ききゆうをしたたら、落ち着くことができました。どきどきしたけれど、少しくわくわくしていました。そして、いすにすわって、また深ききゆうをしてピアノをひき始めました。グランドピアノは、音がよくひびいて、きれいな音が出るので、ピアノの音でよく聞いてひくことができました。

えんそうが終わって、またかん客の前で礼をしたときには、心ぞうのどきどきがどんどんゆっくりになって、落ち着きはじめているのが分かりました。そのときは、大きなはく手の音で他の音は一つも聞こえませんが、その数秒がわたしのいちばんすきな時間です。なぜかという、はく手を送られて、ちゃんと練習のせいかを出すことができたかなと思うからです。

今回のコンクールでは、自分の取りたいしよは取ることができ

ませんでした。わたしは、とてもくやしかったけれど、家族のみん
なが、

「よくがんばったね。」

と、はげましてくれました。お母さんは、

「ど力をつづけたら、きつともっと上手になるよ。」

と、言ってくれました。

わたしは、ど力をつづけて、来年のコンクールに向けてがんばり
たいと思います。また、ピアノだけでなく、いろいろとチャレンジ
やど力をしたしたいと思います。